



クリエイティブワークの現場で「SV600」が大活躍！ 株式会社アマナ 様

広告ビジュアル制作の大手・株式会社アマナが、非接触で読み取るオーバーヘッドスキャナ「ScanSnap SV600」を導入し、早くもクリエイティブワークに欠かせないツールになっているという。天王洲アイル（東京都品川区）の本社を訪ね、「SV600」を使いこなして効率化を実現した映像ディレクターの江草香苗さんに、「SV600」を手放せない理由と具体的な活用法を伺った。



株式会社アマナ 様

アマナグループの1社として「ビジュアル・コミュニケーション」の分野を担当。インターネットや展示会など、様々な媒体や企業の広告映像などを企画・プロデュース。多彩なビジュアル表現と最先端の技術による付加価値の高いサービスを提供している。

手を止めなくてよい「置くだけ」スキャンがストレスフリーな制作環境を実現

手の届く範囲で仕事を完結させられる

株式会社アマナで映像ディレクターを務める江草香苗さんの業務は、クライアント企業の要望を受けて広告映像の企画案を作り、中心的立場で社内外のスタッフを取りまとめながら映像を制作すること。いわゆるクリエイティブワークの代表格ともいえる仕事だ。またビジュアルが重要な役割を果たす分野でもあるため、スキャナを使用する頻度は非常に高い。ここで江草さんの大きな力になっているのが、半年ほど前に導入された「ScanSnap SV600」だ。初めてその動き（ヘッドが回転しながら光を照射する）を見たとき、江草さんは「衝撃を受けた」という。「ロボットが来たのかと思いました（笑）。当初は私に使えるだろうかと不安でしたが、一度スキャンしたらとても便利で、いろいろな使い方ができることもわかりました。今では必需品です」



株式会社アマナ CGIプロデュース部 CGIディレクターの江草香苗さん。デスクの右側に「SV600」を常備している。「ボタンを押すだけなので、取扱説明書を読まなくてもすぐに使えました」。

江草さんが感じている「便利さ」の核心はどこにあるのだろうか。「デスクの右側に『SV600』を置いておくと、自分とPCと『SV600』で作られる“三角形”の中だけで仕事を完結させることができるんです。私の場合、いったん仕事を始めたら立つことすらしたくないので、『SV600』が来て本当に助かっています」アイデアを逃さずにつかまえてイメージ化していく仕事では、デスクで集中して仕事ができるこの環境は極めて有利なのだ。それでは、具体的な「SV600」活用法を見ていこう。

ビジュアル素材をストレスフリーでスキャン

江草さんが「SV600」でスキャンする機会の多いものに、資料類がある。クライアントに提出する企画案を作る際、イメージを伝えるためのビジュアル素材として企画書に盛り込むのだ。転載許可の取れた自社の写真素材集などを開いて「SV600」の下に置き、ボタンを押すだけでスキャンできる。

「『SV600』が来てからというもの、ページをめくりながら必要な箇所をパッとスキャンして、データをすぐに『PowerPoint』の企画案に貼り付けられるようになりました。以前は離れたところまで行ってスキャンしていましたが、『SV600』だと大判の重い本を運んだり伏せたりすることもないですし、立てた付箋が取れてしまう事もないですから、とてもありがたいですね」

イメージ画像を取り込むためのスキャンなので、ページ全体ではなく該当箇所に光が当たるように置くだけでよい。だからなおさら簡単だ（ちなみに『SV600』は最大A3サイズまでスキャン可能）。

「以前、フラットベッド型のスキャナをデスクで使っていたこと
もありますが、ずれないよう手で押さえることすら面倒なので、
結局あまり活かすことができませんでした。それに比べて
『SV600』は手軽さが全然違います」



表面左下写真の状態でスキャンボタンを押すと、すぐにPCにデータが表示される。素材として加工するため、データ形式はJPEGに統一している。



厚い本で生じる歪みには補正機能を活用する。画像編集ソフトを立ち上げる必要がないこともストレス軽減につながる。

今は『SV600』とPCのコラボレーションを活用して、デジタルですべてを行うことができます」

絵コンテは仕事の進行に伴って随時改訂され、変化していく。その過程でも「SV600」は、アナログ素材をデジタル化するための「入り口」として力を発揮し続ける。



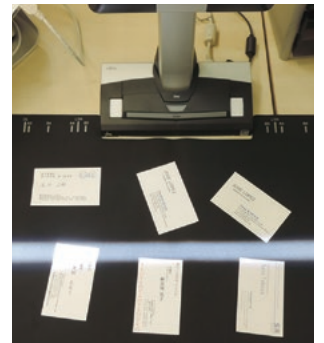
出来上がった絵コンテの一例。制作の進行に応じて、より完成度の高いものへと改訂されていく。

コミュニケーションに役立つ名刺や書類のスキャン

クリエイティブワークでは人とのコミュニケーションも欠かせない。江草さんも日々、客先での打ち合わせや制作現場の立ち会いなどをこなしている。ここでも「SV600」が活躍する。

「名刺をスキャンして、Sansanの名刺管理アプリ『Eight』と連携させてiPhoneで見られるようにしています。『SV600』は名刺を並べてスキャンすると1枚ずつクリップしてくれるので、とても楽です」

こうしておけば、出先から制作スタッフに連絡をとる必要が生じた際も慌てる必要がない。このほか、未発表製品の資料もスキャンしてタブレットPCで見られるようにしておく



一定の間隔を空けて置いた名刺を1枚ずつクリップ。「Eight」に直送する設定にしておけばスムーズに登録できる。

役立つ書類だ。「制作スタッフとの打ち合わせでは製品の資料が不可欠ですが、クライアントさんからは紙でしかいただけませんので、スキャンデータをタブレットで見ながら情報を共有します。1部しかない紙の資料を紛失したり破損したりすることがないので、かえって安心です」さらには今後、企画案に盛り込みたい試作品など、立体物のスキャンも試みたいという。厚みに制限はあるが、被写界深度の深いスキャン画像を作成できるので、可能性は大いにあるはずだ。

このように「SV600」は江草さんの仕事に欠かせないパートナーとして大活躍している。今後クリエイティブワークの現場で『ScanSnap』を見かける機会が、ますます増えていくことだろう。

手描きの線画をスキャンして絵コンテを作成・改訂

映像ディレクションの要となる絵コンテの作成でも、江草さんは「SV600」を活用している。手描きしたイメージを手早くスキャンし、クライアントや制作スタッフ（カメラマン、映像編集、CG担当など多岐にわたる）と共有可能な体裁に整えるのだ。

「アイデアが浮かんだらボールペンで紙に線画を描きます。この段階では手描きがいちばん早くて確実なので、これは欠かせません。次に、それを『SV600』でパッとスキャンしてPC上で絵だけを切り出し、絵コンテの書式に貼り付けながら着色などの加工も施して仕上げていきます。もう1コマ必要だなと思えばまた手描きをして、パッとスキャンして追加するだけ。アナログの時代は絵を消して描き直したり、手で色を塗ったりしていましたが、



ラフ用の紙に手描きした線画をスキャンし、絵だけ切り出して絵コンテを作成する。

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。本事例におけるスキャンは、私的使用の範囲が、または、著作権法上問題のない資料等が対象とされています。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月～金曜日 10時～12時、13時～17時（当社休業日除く）
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnap に関する詳細はこちら
<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>